京都市教育委員会

１　実証研究の概要

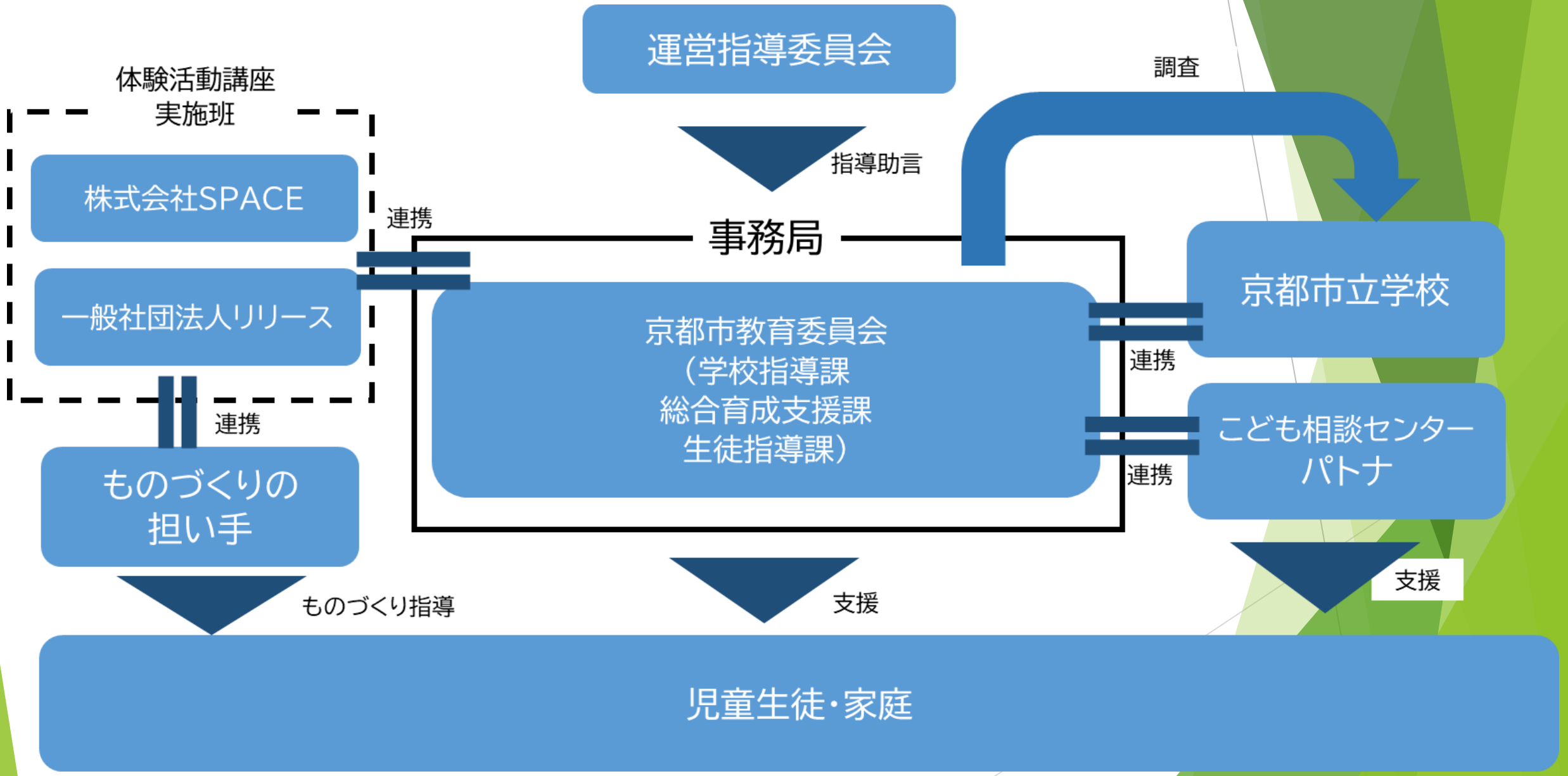
２　研究1

３　研究2

４　まとめ

実証研究の概要

実施体制


運営指導委員会
指導助言
調査
体験活動講座
実施班
株式会社SPACE
一般社団法人リリース
連携
事務局
京都市教育委員会
（学校指導課
総合育成支援課
生徒指導課）
京都市立学校
連携
こども相談センター
パトナ
連携
連携
ものづくりの
担い手
ものづくり指導
支援
支援
児童生徒・家庭

運営指導委員会　年間3回の会議開催

所属・職名	氏　名	担当分野
京都教育大学教育創生リージョナルセンター機構総合教育臨床センター学びサポート室長	小谷　裕実	小児医学
東京大学未来ビジョン研究センター客員研究員	福本　理恵	特異な才能のある児童生徒への支援
京都市教育委員会総合育成支援課首席指導主事	平塚修一郎	特別支援教育
京都市教育委員会生徒指導課首席指導主事	水野　博之	生徒指導
京都市教育相談総合センターカウンセリングセンター長	長谷川智広	臨床心理学

実証研究の概要

	概　要	対　象
研究1	京都市独自の学級経営支援ツール「クラスマネジメントシート」を活用し、特異な才能のある児童生徒が過ごしやすい学級風土について研究する。	京都市立小・中学校に在籍する小学校4年生～中学校3年生 →全ての特異な才能のある児童生徒を対象、学校内での支援に焦点
研究2	京都ならではのものづくりの担い手の協力を得て、伝統文化・芸術等の体験活動講座を実施し、参加児童生徒の心理面等への影響について研究する。	京都市立小・中学校に在籍する小学校4年生～中学校3年生の不登校児童生徒等でものづくりに関心のある者 →特異な才能のある児童生徒のうち学校生活に不適応感のある者を対象、学校外での支援に焦点

研究1

【研究1】実施概要

1　クラスマネジメントシート

（1）概要

京都市が独自に開発した学級経営支援ツール。学級担任等が児童生徒へのアンケート調査を通じ学級や児童生徒の状況を把握し、学級経営等に活用する。

（2）尺度構成

①学級認知（学級風土）

児童生徒が学級をどのように認知しているかを測定する尺度。6因子構造。

②生活適応感

児童生徒が毎日の生活についてどのように感じているかを測定する尺度。小学生版8因子構造、中学生版10因子構造。

2　実証研究の実施手順

全市立小・中学校に特異な才能のある児童生徒の在籍の有無等について照会を行い、当該児童生徒の生活適応感や学校生活の状況とその学級における学級認知（学級風土）との関連を統計的に分析する。

【研究1】実施概要

3　学校への照会項目【照会期間：7/28～9/8】

（1）基本情報

①特異な才能のある児童の在籍の有無

②当該児童の学年

③特異な才能のある分野

（2）当該児童生徒の困り

①感情面　ex.感情のコントロールが難しく、しばしばかんしゃくを起こす

②友人関係面　ex.同級生と興味関心が合わない

③学習面　ex.とめどなく質問する

④行動特性面　ex.理に適っていないことは、ルールや慣習であっても従おうとしない

（3）当該児童生徒の登校状況

（4）当該児童生徒の発達上の課題

（5）当該児童生徒の創造性

ex.単純な知識の記憶などではなく、創造性に富んだ活動をしている

【研究1】分析結果

1　特異な才能のある児童生徒のいる学校数

	小学校	中学校	義務教育学校
学校数	46校／150校	16校／64校	4校／8校
割合	30.7%	25.0%	50.0%

2　特異な才能のある児童生徒数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
人数	11	9	23	24	12	20	8	13	14	134
割合	0.12%	0.09%	0.24%	0.25%	0.12%	0.20%	0.09%	0.15%	0.15%	0.16%

合計　小学生：99人、中学生：35人

【研究1】分析結果

3　特性ごとの学年別人数

(1)友人関係

Fisherの正確確率検定の結果　　:p<.05で有意

	自己が異質との意識	興味関心の合わなさ	難しい話をし過ぎることによる会話の続かなさ	攻撃的な言動をする	攻撃的な言動をされる	高い知的能力と比べた対人スキルの幼さ	その他の友人関係面での困難	友人関係面での困難なし
小学校	12	24	19	23	9	45	13	29
(1~3年生)	4	8	9	10	7(16.3%)	20	8	10
(4~6年生)	8	16	10	13	2(3.6%)	25	5	19
中学校	9	15	8	4	6(17.1%)	10	3	14
合計	21	39	27	27	15	55	16	43
割合	15.7%	29.1%	20.1%	20.1%	11.2%	41.0%	11.9%	32.1%

【研究1】分析結果

3　特性ごとの学年別人数
（2）発達面

Fisherの正確確率検定の結果　　:p<.05で有意

	ＬＤの診断又は特性	ＡＤＨＤの診断又は特性	ＡＳＤの診断又は特性	知的障害の診断又は特性	その他の発達状況の困難	発達状況に困難なし
小学校	5	16	44	3	5	35
（1~3年生）	2	5	22	2	3	13(30.2%)
（4~6年生）	3	11	22	1	2	22(39.3%)
中学校	0	2	9	0	3	22(62.9%)
合計	5	18	53	3	8	57
割合	3.7%	13.4%	39.6%	2.2%	6.0%	42.5%

【研究1】分析結果

4　学級風土の特性に対する影響

(1)友人関係　※左欄:小学校　右欄:中学校

ロジスティック回帰分析の結果

＋:p<.05で有意(正)
－:p<.05で有意(負)

	自己が異質との意識		興味関心の合わなさ		難しい話をし過ぎることによる会話の続かなさ		攻撃的な言動をする		攻撃的な言動をされる		高い知的能力と比べた対人スキルの幼さ		友人関係面での困難なし	
一体感							－							
規範意識							＋							
平穏さ	＋											＋		－
友人関係						＋								
担任との関係														
自己開示				－		－						－		＋

【研究1】分析結果

4　学級風土の特性に対する影響
（2）登校状況（令和5年度1学期現在）

※左欄：小学校　右欄：中学校

ロジスティック回帰分析の結果

＋：p<.05で有意（正）
－：p<.05で有意（負）

	不登校状態（90日以上）		不登校状態（30日～90日）		別室登校		登校渋り		遅刻・早退		登校に困難なし	
一体感												
規範意識												
平穏さ												
友人関係												
担任との関係												
自己開示										－		＋

研究2

【研究2】実施概要

1　体験活動講座の実施日時
　令和5年11月14日(火)～17日(金)
　　10時～16時(講座によって若干の違いあり)

2　体験活動講座の実施概要

	講座１	講座２	講座３
体験内容	宮大工	京友禅	京藍染
体験先の工房	匠弘堂 ファブビレッジ 京北	京都デニム	京藍染工房 松﨑　陸
参加児童生徒数	４人 （小学生　１人 中学生　３人）	４人 （小学生　２人 中学生　２人）	３人 （小学生　３人）

【研究2】実施概要

3　実施スケジュール

		講座１ （宮大工）	講座２ （京友禅）	講座３ （京藍染）
１日目	午前	オリエンテーション 錦市場見学・買い物		
	午後	伝統産業ミュージアム見学		
２日目	午前	レクチャー	レクチャー 抜染のワーク	レクチャー
	午後	大徳寺見学	生地を蒸す→アイロン	絞りの体験
３日目	午前	木や景観を見るワーク 工房見学 ホゾ穴ワークに関するレク	染色のワーク 自分の名前の型を作成	松﨑氏の技法の見学 図案の作成
	午後	ホゾ穴ワーク	レクチャー 抜染のワーク 染色のワーク	練習

【研究2】実施概要

3　実施スケジュール

		講座１ （宮大工）	講座２ （京友禅）	講座３ （京藍染）
４日目	午前	匠弘堂棟梁の技法見学 ホゾ穴ワークへの フィードバック レクチャー（匠弘堂棟梁）	染色のワーク	オリジナル作品の考案
	午後	講座ごとにまとめ作業→発表会		

４　オンライン講座

上記のリアル講座のほか、1月27日（土）～同30日（火）にオンラインでの講座（6講座）も実施。

【研究2】体験活動講座の様子

1　児童1名に体調面での事情による遅刻・早退があったが、全員が最後までプログラムをやり切った。

2　プログラム開始当初は、子どもたちの間に緊張した雰囲気が見られたが、運営スタッフの個別的な関わりにより、プログラムが進むにつれ、徐々に子ども同士の関わりが見えてきた。

3　一方で、初日終了時には、かなりの疲れを訴える子どももいた。

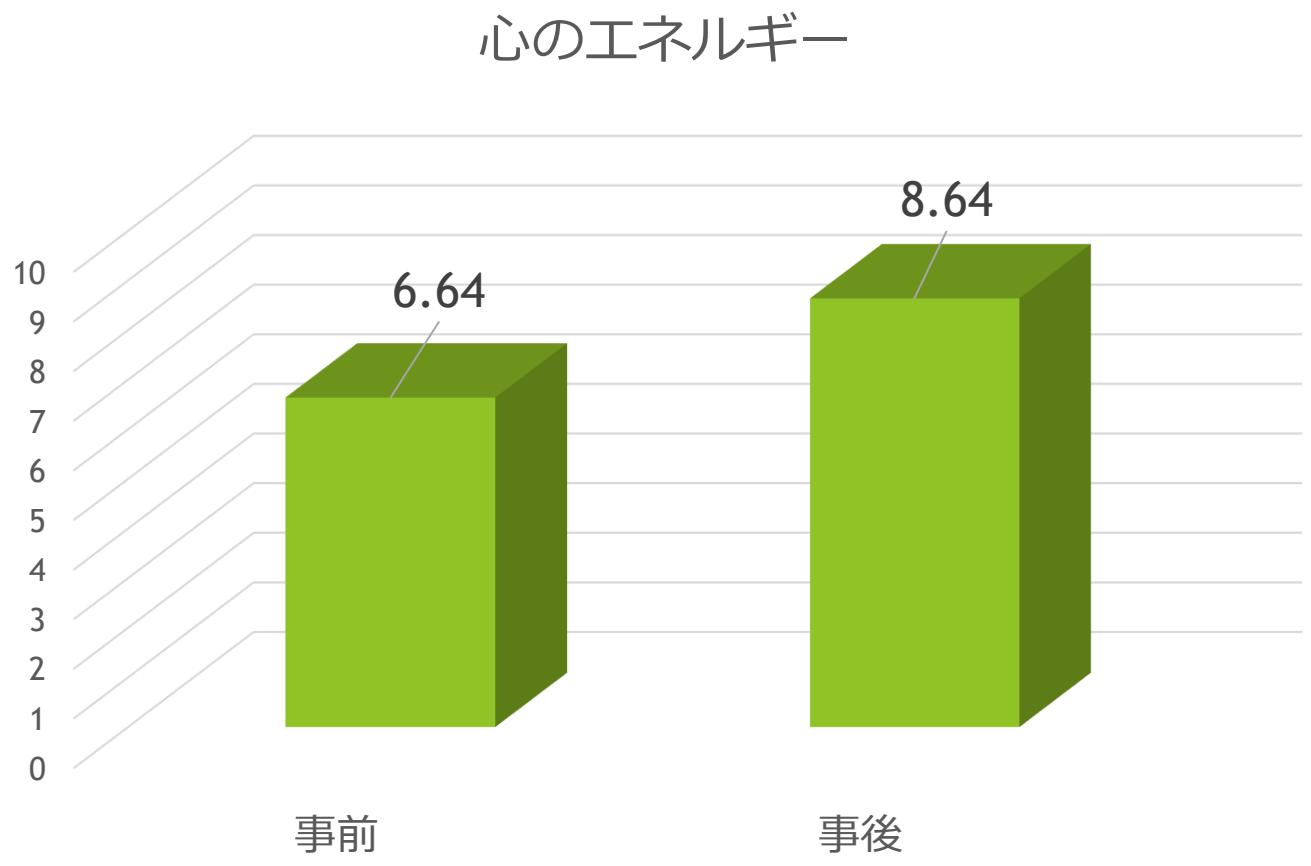
4　2日目以降は、それぞれの講座内で子ども同士のやり取りが活発になり、工房スタッフや運営スタッフも交えて、活発なやり取りが増えてきた。

5　また、工房スタッフから教えてもらう技法への関心も高まり、ワークに積極的に取り組む様子も見られた。

6　最終日の発表会では、初日とは見違えるほどの笑顔が子どもたちに見られ、工房スタッフ、運営スタッフも交え大変暖かい雰囲気となった。

【研究2】実施前後のアンケートの変化

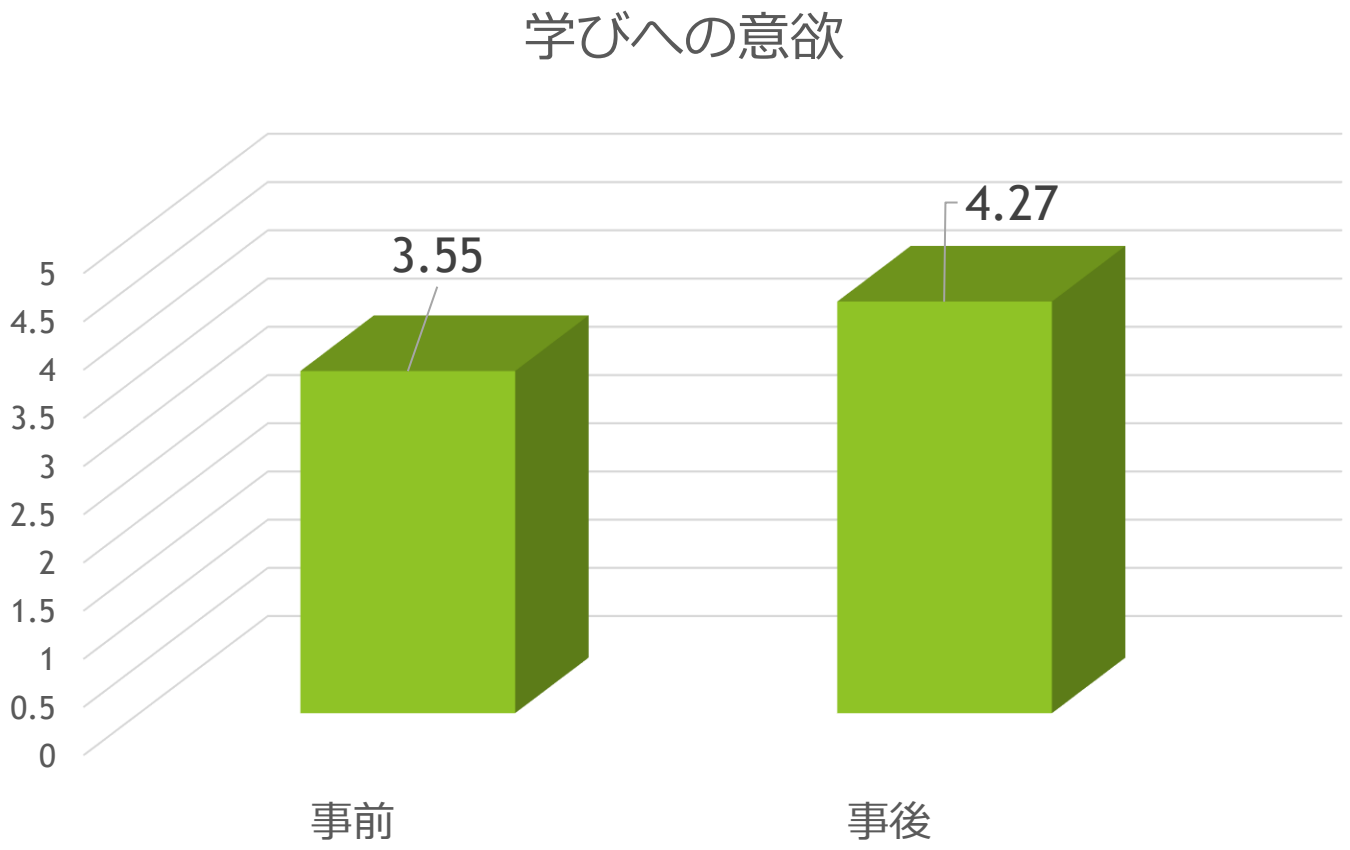
1　心のエネルギー



t検定の結果、p<.01で有意な数値の上昇

【研究2】実施前後のアンケートの結果

2　学びへの意欲



t検定の結果、p<.05で有意な数値の上昇

まとめ

まとめ

特異な才能のある児童生徒にとって、よりよい学びの場

１　教育プログラム
（1）多様な分野への興味関心を引く仕組み
（2）スモールステップで自分らしさを表現できる仕組み

２　人間関係の場
（1）互いに助け合うような一体感（とりわけ小学生）
（2）自由に自分の意見を言える雰囲気（とりわけ中学生）